群馬県中期財政見通し(令和2年10月推計)

令和2年10月9日 総務部財政課

【留意事項】

- 今後の新型コロナウイルス感染症対策をめぐる状況や景気の動向によっては、対策 費用が嵩んだり、税収等の歳入が大きく落ち込むおそれがある。
 - → そうした<u>コロナの影響は予測がきわめて難しいため、今回の見通しには織り込んで</u> いない。したがって、<u>この見通しよりも大幅に財政状況が悪化するおそれ</u>がある。

基本的な考え方

【背景・ねらい】

- 少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増加など、地方財政をめぐる環境は厳しさを増す。
 - →中長期的な視点を持ち、持続可能な財政運営を行っていく必要。
- そこで、今後の財政運営の参考にするため、今の状態が続けば、今後、県の財政がどうなるかを推計した。

【推計の考え方】・・・税収の水準や制度、県の判断で決定できる歳出(裁量的経費)の規模などが現在の水準で推移したものと仮定して、機械的に推計。

歳

県税・交付税・臨財債等

・現在の水準・制度をベースに、 既に判明している制度改正は反映して推計。 国補助金・県債(臨財債除き)等

事業費見合いで推計

歳出

義務的経費

・社会保障関係経費の場合は対象者数の推移等に基づき、それぞれ 所要額を推計。

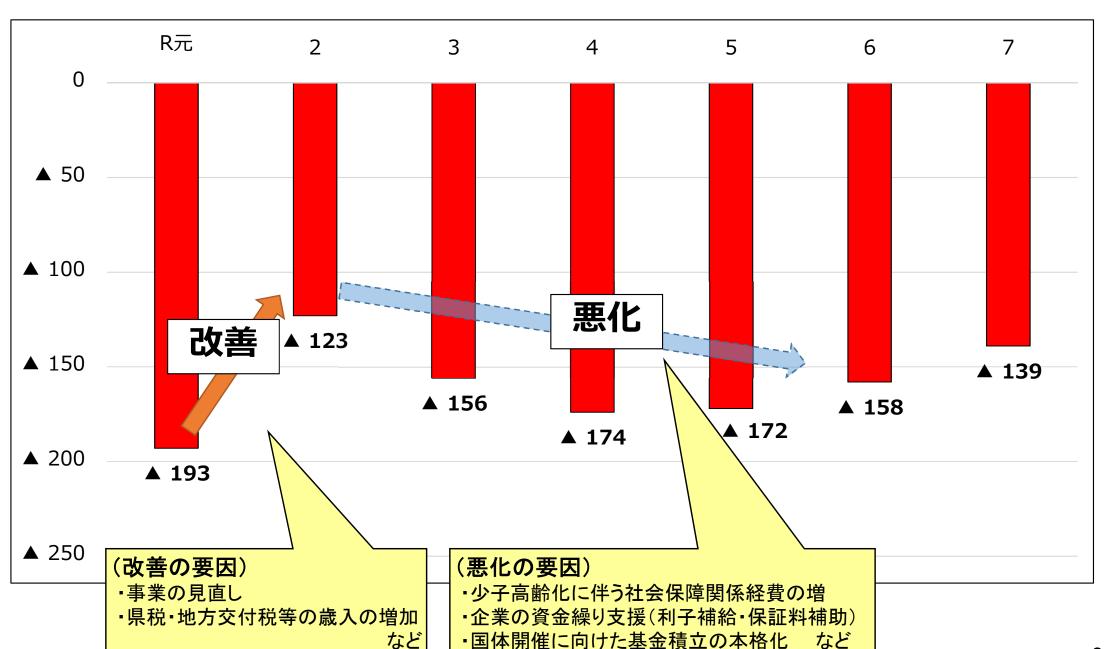
裁量的経費

・現在の水準で推移したものと仮定。

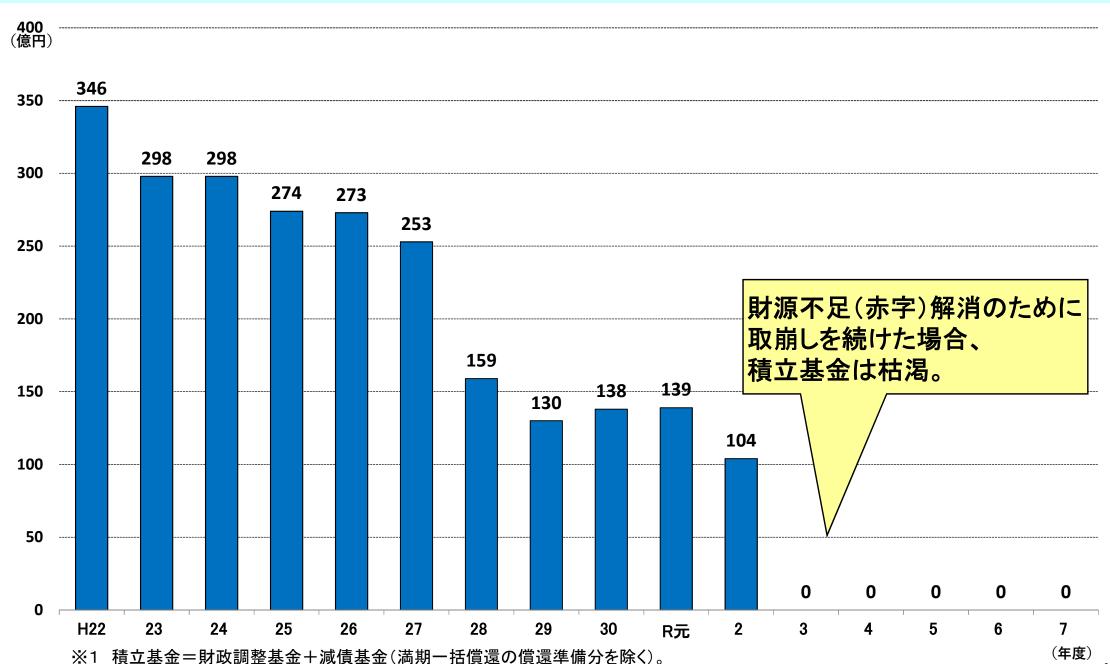
群馬県中期財政見通し(令和2年10月推計)

							(単位:億円)
区分		2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)
歳出	人件費	2,196	2,181	2,185	2,151	2,151	2,122
	公債費	1,002	996	998	1,009	977	962
	社会保障関係経費	1,069	1,097	1,116	1,135	1,156	1,176
	投資的経費	974	961	933	936	930	936
	その他	2,210	2,340	2,293	2,265	2,263	2,259
	歳出合計	7,451	7,575	7,525	7,496	7,477	7,455
	県税・地方消費税清算金	3,486	3,589	3,533	3,531	3,525	3,522
歳	地方交付税・地方譲与税・地方特例交付金	1,692	1,692	1,692	1,692	1,692	1,692
	県債	895	842	838	841	843	850
入	その他	1,255	1,296	1,288	1,260	1,259	1,252
	歳入合計	7,328	7,419	7,351	7,324	7,319	7,316
財源不足額(歳入一歳出)		△ 123	△ 156	△ 174	△ 172	△ 158	△ 139
基金取崩し県債発行		53	142	116	116	116	116
		70	14	58	56	42	23
当初予算編成後の基金残高		52	0	0	0	0	0

今後の財源不足額の推計

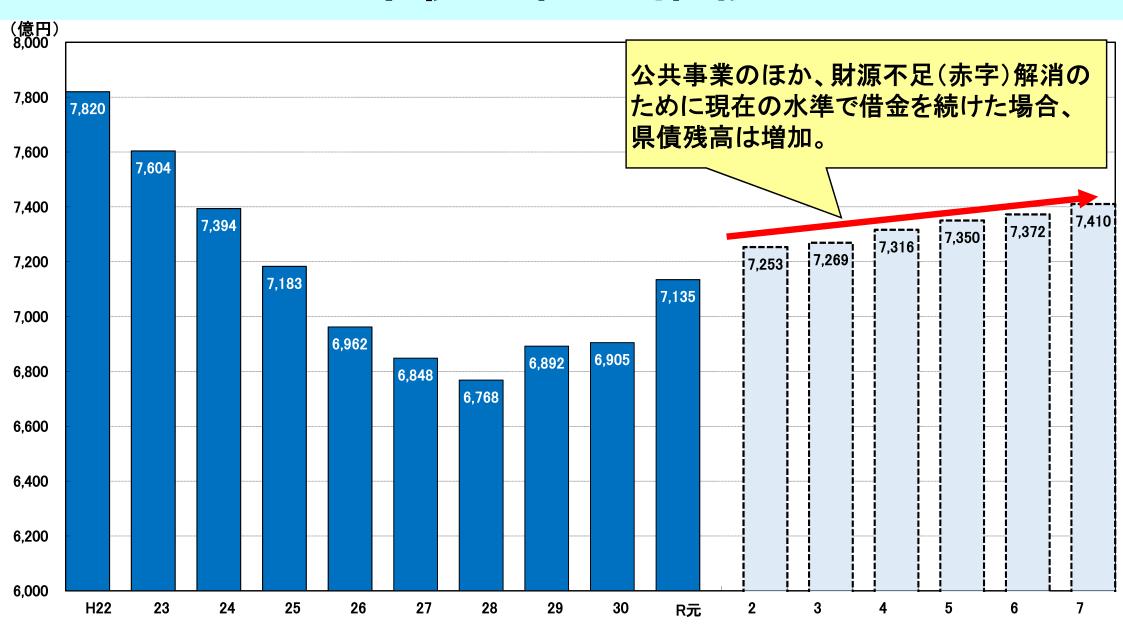


積立基金の残高の推移



※2 R元までは年度末残高、R2は9月補正後、R3以降は当初予算編成後残高。

県債残高の推移



- ※1 臨時財政対策債を除く。また、基金を全額取り崩してもなお発生する財源不足額を、全て財源対策的な起債で賄ったものと仮定。
- ※2 R元までは年度末残高。R2以降は、公共事業費について、近年の増額補正の実績を反映して1,000億円とした場合の試算。 (参考:補正後の最終予算額 H29:967億円、H30:1,016億円、R元:1,436億円)

今回の見通しから読み取れること

~R元

・毎年200億円前後の財源不足



- ・基金残高の減少 🕥
- ・県債残高の増加 (悪化) 🕥

- ・事業見直しの成果
- ・地方交付税等の歳入の伸び

R 2 当初

・財源不足は大きく改善(123億円)



- ・基金残高の増額確保 🥕
- ・県債残高の抑制(改善) 🥕

- ・少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増
- ・企業の資金繰り支援(利子補給・保証料補助)
- ・国体開催に向けた基金積立の本格化 など

R3~(今回の見通し)

・財源不足が再び拡大(悪化)



- ・積立基金が再び底を尽くおそれ 🦠
- ・県債残高も増加(悪化)🦠
- ※ **コロナの影響や景気動向**は、予測がきわめて難しいため、**今回<u>の見通しには織り込んで</u> <u>いない</u>。したがって、<mark>この見通しよりも大幅に財政状況が悪化するおそれ</mark>もある。**